



第29号

発行

県の里まちづくり推進協議会

県主地区自治連合協議会

県主公民館

県主地区社会福祉協議会

子どもたちの成長を見守って

県主小学校区人づくりネットワーク

運営協議会会長 岡田章文

県主の子どもたちは、この地で育ち、家庭や学校・地域に見守られながら成長しています。一般的に成長の過程で、ややもすれば学力を中心とした成績で、子どもたちの能力を判断してしまいがちです。

しかし、学力の向上とは別に、地域の方々と関わり、コミュニケーションをとって、地域のことを知り、地域内での活動を体験し、満足感や達成感を味わうことで子どもたちの成長に大きく影響します。地域の方々が子どもたち

の成長に関わっている事柄はたくさんありますが、心に残る事例を紹介いたします。

昨年からの2年間、県主小学校5・6年生が取り組んだ「そうだ！県主へ行くこう！」をメインテーマとして、県主の良さを多くの人に伝えるために、「調べ学習」や「体験学習」をとおして活動した成果が、「おやかま学び大賞」で、昨年は「優秀賞」を受賞しました。そして、本年度は「最優秀賞」の栄誉を受けることになりました。また、5年生

の取組み「そうだ！県主へ行くこう！かしプロジェクト」が山陽新聞桃太郎賞を受賞しています。本当に良く頑張りました。心から「おめでとう」と言いたいと思います。

このような非認知能力（学力以外の能力）を身につけることが、さらに子どもたちの心の成長へ繋がっていくものと考えます。

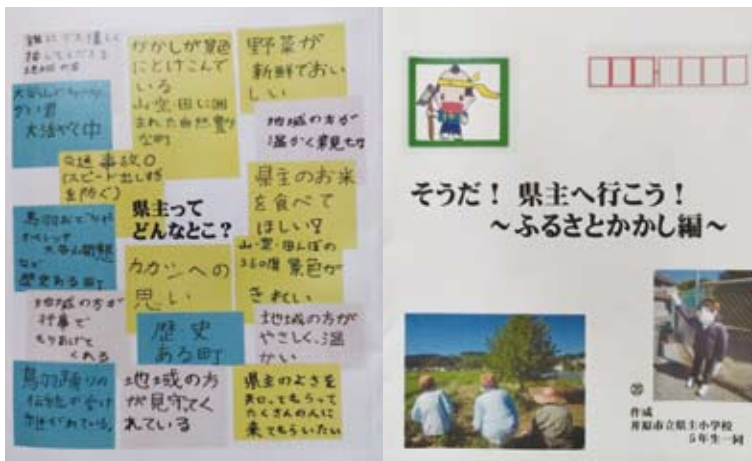
「おやかま学び大賞」とは、岡山県内の小中学生の皆さんが住んでいる地域の魅力や抱える課題の解決、地域活性化の提案など、自ら課題を発見し、グループで協力しながら課題解決に取り組んだ学習の成果を審査し表彰するものです。

非認知能力の項目としては、次のようなものが挙げられます。

- ① 自己認識（自分の存在）
- ② 意欲（目標を成し遂げる熱意）
- ③ 忍耐力（耐え抜き、頑張る力）
- ④ 自制心（冷静に長期的な

視点で考える）

- ⑤ 理解の速さ（本質を理解する能力）
- ⑥ 社会性（気配りできる優しい心）
- ⑦ 精神面の回復力（くじけない再起する力）
- ⑧ 想像力（新しいものを発想し、創りだす力）
- ⑨ 好奇心（興味を抱き、取り組むチャレンジ精神）



「認知症になっても安心して暮らせる地域をめざして」

社協会長 佐藤和子

三月五日（土）、絵本読みグループJ-Iの皆さんによる寸劇「そろそろ家に帰ります&ご飯はまだかな」を鑑賞して、認知症になった方にどう接するのが支えることになるのかを学習しました。

行くと行ってた旅行をすっぽかしたり、食事をしたことを忘れて「ご飯はまだか。」と催促したり、家に居るのに「家に帰ります。」と言って出ていったりするお義母さん。そんなお義母さんの行動を正そうとして、一生懸命言えば言うほどますますお義母さんを窮地に追いやってしまう例と、お義母さんが認知症であることを地域の人へも明かして協力を求め、思い込んで変な行動をするお義

母さんの思いに寄り添って一緒に行動する例が演じられました。

最後の「手紙」という詩の朗読には、一生懸命に子育てをしてきた母の慈愛と年老いて思うように動けない今の思いが詰まっています、胸がいっぱいになりました。

演技を見ながら、「年老いた父が同じようなことを言っていた。」と、介護の経験を思い出して目を潤ませておられる方もありました。「お嫁さんはお義母さんにもっと優しくしなければと分かっていても、毎日のことになる大変だ。」とお嫁さんの立場を思いやる感想も。また、「世話をしている人に寄り添うことも大事だ。」と、皆さんが認

知症について身近なことで感じておられることが分かりました。

認知症の方に寄り添う秘訣

- ① 否定しないで共感すること
- ② 「ごめんなさい」とちょっと謝ることでプライドを傷つけないこと
- ③ 他のことに気をそらしてあげる

地域に住む周りの人ができること

- ④ 「あれ？」と気づくこと
- ⑤ 「大丈夫かな？」と気遣うこと

⑥ 「大丈夫ですか？」と声をかけたり
「気になる方がいるのですが。」と相談したりするなど**行動すること**
など、学ぶことがたくさんありました。

家でも地域でも、「できなくなったからさせない」のではなく、「できることをしてもらい、感謝の気持ちを伝える」ことが大切だと思いました。

いずれ誰もが行く道。そう思って、認知症になっても、また、体が不自由になっても住み慣れたこの地域で安心して暮らせる県主地区を目指してみんなです。



細川由美さん 『ストラバジャパンアワード』受賞



年間の走行距離は驚異の7695キロ

門田町の細川さんは、広報いばらに掲載されみなさんすでにご存じとは思いますが、スマートフォンアプリ運営のストラバ(米国)が、昨年の優れた記録を表彰するアワードで、走行距離や獲得標高の合計などで競う6部門のうち、ランニングの距離の部で国内女性1位として表彰を受けられました。受賞の一報を受けられたときは、こつこつと走り続けた結果の思わぬ賞に感動された様です。

細川さんがランニングを始めたきっかけは、8年前に親子で参加した全国健康マラソン井原大会への出場だったそうです。親子

で練習するうちに細川さん自身も本気のスイッチが入られた様です。

今では、ランニング漬けの毎日で、平日は仕事を終えて夕食の準備を済ませ走り込む。休日は、近郊の山道を6時間は走られているそうです。今後は、フルマラソンの公認コースで3時間を超えること、富士山周辺で開催される国内最大規模の100マイル(約160キロ)の大会にも挑戦されたいそうです。走る事は単に分だけ成果が出るし、練習や大会を通じて人と人との繋がりができ、自分の世界が広がっていく事が魅力だそう。これからも怪我のないよう益々精進いただき目標を達成されますようお祈りします。

文責：この文章は広報いばら・山陽新聞を参考にしています。

満百歳！ おめでとうございます！

社協会長 佐藤和子

二月十六日に、門田町の長谷尚子さん、二月二十日には、門田町の岡田高代さんが、満百歳の誕生日を迎えられました。県主地区社会福祉協議会から、会長、地区担当民生委員が訪問し、ささやかながら祝金を手渡ししてお祝いしました。

長谷尚子さん



岡田高代さん



た。子のため家族のために苦労を重ねて来られたお二人の思いはお子様伝わり、今では、優しい家族と共に穏やかな毎日を過ごされています。このお二人は縁あって、家が隣同士で若いころから互いに助け合って来られた仲良しさんだそうです。コロナの関係で、一緒にお祝いをする事は叶いませんでしたが、共に百歳を迎えられたことを互いに喜んでおられることでしょう。

尚子さん、高代さん、いつまでもお元気でお過ごしください。



1/11

県主小学校 とんど集会

県主のわだ い



12/10

しめなわ集会



8/29

青田刈り



セイモンへ出張中のかかし



大谷山三十三観音巡り

社協理事 森本峰子



3月20日、52名の参加者を得て恒例の大谷西国三十三観音巡りが開催されました。午前8時半、金剛福寺境内に集合、佐藤会長の開会のあいさつに続き、井上ご住職の導師のもと、境内に安置された粉河寺千手観音にお参り、観音巡りの安全と参加者全員の健康を祈願し般若心経を唱え、出発しました。

二番札所の金剛宝寺まで

は急な山道を、みんな元気よく登り切り大谷山の頂上に到着しました。ここからはほぼ平坦な道ので、お互いに距離をとりながら会話を楽しみながら巡って行きました。途中、朝市が開かれていた櫓の杜で一休み、一番難所の急な坂道を足元に気を付けながら慎重に下り岩瀧観音（安産と子宝）へ到着。ここまでの無事を感謝しながら唱える般若心経が静かな谷間に響き渡りました。

前々日、前日と続いた雨により、足元が悪くなっているところも所々ありましたが、小春日和の中、心地よい汗をかきながら一生懸命観音様を巡っていきました。昨年、佐藤自治連合協議会長さんが作成してくださった、大谷山三十三観音すべての名前と唱える念仏の言葉を載せたガイドブックは、今年改訂され素晴らしいものをいただきました。例年より小学生、中学生の参加者が多く、冊子を見ながら、それぞれの観音様の名前を再確認した

り、丁寧に念仏を唱えたりしました。ゴルフ場沿いの観音様に手を合わせながら札所観音正寺を経て全員がそろって最後の六道様へ。少し曇ってしまいましたが、皆さんの心は晴れ晴れとしていい顔になりました。最後に佐藤会長が、子どもたちに、「この冊子の中で、オペレッタに関係することを見つけてくださ」と課題を出していましたが、この三十三観音霊場の起ころは開墾と大きく関係しているということでした。と冊子の中の説明をしてくださいました。全員怪我もなく無事に観音巡りを終えた感謝の気持ちを含めて般若心経を唱え解散しました。

それぞれの思いを胸に県主の自然にふれながら交流を深めることができ思い出深いものになったと思います。

観音巡り開催に当たり遍路の整備をしていただきまして六和会、諸準備をいただきまして社協担当の方々本当にありがとうございました。



鳥羽踊りこども 伝承教室閉講式

副会長 森下和美

令和3年度、鳥羽踊りこども伝承教室の閉講式が3月13日に行われました。

閉講式前にご来賓の方並びに保護者の方の見守られる中で元気よく真剣に今年度の練習成果を発表しました。閉講式では表彰ののち、ご来賓よりお褒めのお言葉をいただいたあと、受講生1人ひとりが1年間の活動について感想を発表しました。

消防団の活動報告



皆さんこんにちは。私たちは井原市消防団井原方面団県主分団（以下、県主分団）です。

コロナ禍で様々な活動が制限されておりますが、地域の安心・安全を守るため、出来る限りの活動を行っております。今回は、活動の一端をご紹介します戴きます。

◎令和3年7月
他分団との合同放水訓練
（小田川）



分団長 三嶋和也

◎令和3年8月
げし焼き対応のため出動
（地面池）

◎令和3年11月
県主地区防災訓練での避難誘導

◎令和3年12月
年末警戒巡視

◎令和4年1月
県主分団各部合同試運転
（淀池）

◎令和4年3月
春季火災予防運動パレード
県主分団式典
（県主公民館）

消防団からのお願い

◎たばこの不始末やストーブの使い方など十分注意してください。

火の近くには燃えやすいものを置かないようにしましょう。

◎留守中の火災は発見が遅れるため、大火につながりやすいものです。

外出の前には十分に火の元を確認しましょう。

◎火を使ったら、火が完全に消えるまでその場を離れないようにしましょう。

空気が乾燥し、風の強いこの時期は、火災が発生しやすくなっています。

◎どんな火災も最初は小さな火です。

119番通報が早ければ、それだけ被害が少なくてすみます。

火災を発見したら、落ちていて、場所をはっきりと消防署へ伝えましょう。

新入団員募集中心！

「自分たちの町を自分たちの手で守る消防団」



県主の防災リーダーとして活動しませんか？

私たち県主分団では、新入団員を募集しております。

年齢18歳以上の井原市内に居住または勤務されている健康な方であれば入団できます。

「消防団員は特別職の地方公務員です」

入団を希望又は消防団に興味のある方は、お近くの消防団員にご連絡ください。

※ツーリングやプラモデル、ラーメン屋巡りなど、様々な趣味を持つ仲間が待っています。





内閣府・中央防災会議「平成 30 年 7 月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ」では、今後の避難に対する基本姿勢が以下のように示されています。

県主地区防災会においても、このような活動に取り組んで参りますので積極的に協力いただき災害に強い地域づくりを進めて参りましょう。

西日本豪雨を経て新たに示された避難に対する基本姿勢

避難に対する基本姿勢

<目指すべき社会>

住民 【自らの命は自らが守る】意識を持つ

- 平時より、災害リスクや避難行動等について把握する
- 地域の防災リーダーのもと、避難計画の作成や避難訓練等を行い地域の防災力を高める
- 災害時には自らの判断で適切な避難行動をとる

行政 住民が適切な避難行動をとれるよう全力で支援をする

- 平時より、災害リスクのある全ての地域で、あらゆる世代の住民を対象に、継続的に防災教育、避難訓練などを実施し、「自らの命は自分らが守る」意識の徹底や地域の災害リスクと取るべき避難行動等の周知をする
- 災害時には、避難行動が容易に取れるよう、防災情報をわかりやすく提供する

実現のための戦略

① 災害リスクのある全ての地域であらゆる世代の住民に普及啓発

子供	災害リスクのある全ての小・中学校等における避難訓練・防災教育
地域	全国で地域防災リーダーを育成し、防災力強化
高齢者	全国で防災と福祉が連携し、高齢者の避難行動に対する理解を促進

② 全国で専門家による支援体制を整備

専門家(水害、土砂災害、防災気象情報)

全国で地域に精通した防災の専門家による支援体制を整備し、①の取組を支援

③ 住民の行動を支援する防災情報を提供

リスク情報

地域の災害リスクを容易に入手できるよう、各種災害のリスク情報を集約して一元化し、重ね合わせて表示

防災情報

防災情報を5段階の警戒レベルにより提供することなどを通じて、受け手側が情報の意味を直感的に理解できるような取組を推進

ボランティアグループABCの会

代表 佐藤和子

もらえる。」

「場を変えることで、テレビやゲームなどの誘惑から離れ、集中できる。」
「友達が頑張っているのを見ると頑張ろうと思う。」

などの感想を言ってくれるので、四年度も頑張ろうと話し合っています。

スタッフは県主の主婦が中心です。学生さんに長期休業中は応援をもらっています。が、地元からの通いの学生さんなど、お手伝いしていただけの方を探しています。

一緒に県主の未来を背負う子を応援しませんか。

また、新年度から、入学時が大切と考え、入学後の一か月程度の日曜日にも会を開くことにしました。
令和三年度は52回の開催でしたが、通ってきている子どもたちは「分からないとき教えて



とんど「やぐら」製作

県主小学校区ひとづくり
ネットワーク運営協議会より

長年、生駒五三六さんの指導のもと、とんど集会のやぐらを製作していましたが、令和3年度より県主小学校区ひとづくりネットワーク運営協議会で行うこととなりました。

やぐらは、高さを今までより低くすることで製作に掛かる労力を少なくする。また、時間短縮ができるようにコンパクトなやぐらづくりに取り組みました。

とんど集会当日は、組み立てに携わった関係者がうまく燃え上がるか祈りながら見守る中、6年生代表が点火、勢いよく燃え上がる炎をみて一同ほっと一安心しました。

やぐらの製作には若干改善の余地も見受けられましたが、これらの改善点を次年度に活かし更に作りやす

いものにしていきたいと考えています。
やぐらづくりに参加されたボランティアの方、PTA、ひとづくりネットワークの皆さんご苦勞様でした。次年度もより良い櫓ができるよう協力していきましょう。



ご寄付ありがとうございました

県主地区社会福祉協議会へ

藤井 俊治様 (亡 母)

岡田 博史様 (亡 母)

佐藤 利弘様 (亡 父)

紙面をもってお礼にかえさせていただきます。



県の里まちづくり推進協議会

県の里まちづくり推進協議会のページで「みんなの県主」が閲覧できます。【ホームページ】<http://www.agatanosato.jp>